

## 室内遊びのコーナー 狭くて広い(!?) 保育室を作ろう

小さなコーナーごとに遊びが展開する保育室には、デッドスペースが少なく、空間を広く有効に使えするというメリットがあります。コーナー保育を行っている園であっても、もう一度コーナーの作り方を検討してみましょう。

### 子どもが落ち着いて遊び込めるのは 開けた場所ではない

棚を壁際に沿わせ、中央に広々とした床を確保した保育室には、「子どもたちに、できるだけ広い保育スペースを」という思いが込められているのでしょうか。しかし「子どもの心を落ち着かせる」という観点からはベストではありません。自宅の部屋にはないような広がりのある空間に長時間置かれることは、一日の大半を保育園で過ごす子どもたちにとっては安らぎを感じづらい状態なのです。全力疾走もできてしまうような部屋は、遊戯室にはいいですが、落ち着いて遊びに没入する場としては、けっしてふさわしくありません。

保育室の中で子どもたちが遊んだり、生活したりする位置の傾向を調査したことがあります。保育室内を小さなゾーンで区切っていない保育室では、壁際や壁沿いの棚から60センチ程度、あるいはそれ以上離れた場所にすわって遊びや生活が展開されることが多いとわかりました(※)。つまり、壁際は保育のデッドスペースになっているのです。一方、棚やパーティションなどで小さなゾーンに区切った保育室では、その境界や壁から子どもまでの距離はぐっと縮まっていた。🏡



◀ドイツの保育園。遊びの内容に応じていろいろな家具を揃えている。

## 棚の向きと位置を変えてみる

保育室の壁際に沿って置かれた棚の向きを変えて、ゾーンを区切ってみましょう。🏡



壁から壁面に置いた棚で食事のスペースを作る。食事を持ってきた子どもたちは、順次写真右下の遊びのスペースに移動する。

棚を境界に沿わせて置くのではなく、離して置くことによって、遊びのゾーンを区切る。

紙ダンボールに色紙を貼って作った簡単なパーティションで、空間をゆるく区切っている。狭くて扱いやすいので、時間帯によって、気軽にレイアウトを変えられる。

部屋を縦に仕切るテーブルは子どもの生活に合わせて動かせる軽いものに。

▲東京市内の公立保育園



▲◀棚やついたてで小さいゾーンに区切られている1歳児の保育室。左の写真は撮影したのは、延長保育の時間。2歳児以上のクラスの子どもたちが交遊して、寝そべったりして交流している様子。(さくらのもり保育園/埼玉・久喜市)

## 「低さ」という観点から保育室を見直す

天蓋やドーム型の家具・遊具を利用して天井高を低くすると、背の低い子どもにとって落ち着いた空間を作ることができます。また、子どもが樹越しに見合うことができる高さの棚は、物を置くこともできて遊びが広がります。



◀ 次室のように天井から布を垂らすことで空間をゆるく仕切り、天井高をコントロール。寝転んだ子どもが、直射の光源を直接見ないで済むというメリットも。(東京・公立保育園)

▶ 保育室の中に、まるで屋根裏部屋のように狭く、天井の低いスペースが作り込まれている。(うれしの東保育園/藤原・秋園)



▶ 棚の背面を利用して、おもちゃやマグネットを取りつけるのも有効。すわると隣のコーナーが見えない高さを探つのもポイント。(さくらのもり保育園)



◀ 各保育室の間は、完全な壁ではなく、ガラスと、園児の身長よりも高い固定家具で仕切られている。個々の保育室の独立性を保ちながらも、子ども視線では上部に開放感があり、同時に保育者の視線が届くようになっている。(レイモンド庄中保育園/奥知・尾張誠作)

## ゆったり・ゆったり 昼寝 & 寝転がる環境

保育環境作りは常に「子どものため」を第一に考えたいもの。けれど大人の都合で、つい「管理」の視点で整えてしまうことはないでしょうか。ここでは子どもファーストの午睡の空間について考えてみましょう。



▲はふくスペースを兼ねた寝るためのスペース。にどもむら別府保育園さくらのほら/埼玉・久喜市

## 「食寝分離」が大原則

みなさんが家族と暮らす住宅では、食べている横で布団を敷きますか？

戦後、住宅供給が大量に必要な1951年、公営住宅での間取りのひな型として「51C型プラン」が作られました。その中に、食べる場所と寝る場所を分ける「食寝分離」の考えが盛り込まれています。時代背景的に最低限の面積の中でも、人間として守るべき考え方なのです。

保育所の収容者数を多くしたいという社会的な要請は理解できますが、子どもたち個々の活動のペースを守る、食べる空間と寝る空間を分けて衛生面での秩序を作るという視点からみて、食寝の分離は保育園においても守られるべき環境設定です。布団を敷く運営の面からも、食事の場所とは違う場所に寝るための場所を設定するのがスムーズです。

保育所の面積を定めている「児童福祉施設最低基準」（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」令和元年7月31日公布、施行）を見ると、2歳児以上の保育に必要な面積はひとり当たり1.98平方メートルとなっています。これは大人のシングルベッドのサイズとほぼ同じです。子どもサイズはもうひと回り小さいですが、布団以外にも家具があることを考えると、園の新しい建物を作るときには、寝るための場所の面積がポイントになります。 



▲写真中央の保育室上方部分が3-4歳児の寝る場所。食事は調理室に面したランチルームでも。（みどりの保育園/東京・多摩市）



▲1-2歳児が寝る場所。2歳児室（写真左側の向こう）と1歳児室（写真右側の向こう）の間にあり、扉の閉鎖で開かれた場所にも閉じられた場所にもなる。食事は調理室に面したホールでも。（さくらのもり保育園/埼玉・久喜市）

## 異年齢が交わる空間

通常保育のクラスは、年齢別や1〜2歳差の異年齢で編成されることが多く、大きな年齢差のある子どもたち同士が居合わせる機会は少ないことでしょう。体の大きな子どもたちが活発に動けば、同じ部屋の中で過ごす年下の子どもたちからすれば、安全が脅かされることになってしまいます。

けれど延長保育や預かり保育では通常より人数規模が小さいので、年齢差の大きな子ども同士が同じ空間で過ごすことになります。大きい子どもも落ち着いて遊べる場を作れば、年上の子は自然と年下の子の遊び相手になり、できないことをやってあげたりします。年下の子は自分にできないことをする年上の子の様子を見て憧れ、まねをするなど、異年齢が交わるメリットは、読者のみなさんが理解されていることと思います。

今回取り上げた多くの事例から読み取れるのは、ずわっているシーンが多いことです。部分的にマットやじゅうたんを敷いて床座になれる場所をつくと、走り回る雰囲気コントロールすることができます。もちろん椅座(いすにすわる姿勢)になれるところも意図的に作って、有効に活用しましょう。

姿勢が低くなることによ

ってパーソナルスペースは小さくなるので、それぞれの遊びに夢中になる場面が近くになり、なんとなく近くで過ごす人の状況が伝わりやすくなります。家庭的な雰囲気が醸し出されます。



▶▶ 人数規模に応じた部屋の大きさやしつらえ方が延長保育のときのポイントとなる。この日の給食は小さい部屋で、小さい座卓を使用している。下の写真は遊びのスペース。奥に給食の場所が見える。延長保育の時間は園内から遊びたい玩具を持っていくことができる。(しせい丈の子保育園)



▲ 3歳以上の子どもと0・1・2歳児が交って遊んでいるシーン。青色のジョージを着ているのが3歳以上児。機やついでで区切られたスペースもあり、思い思いに集中して遊んでいる。(はくらのもり保育園/埼玉・久喜市)


## 目隠しでお迎えの保護者を視界から遮る

保育室や通路の配置が熟慮されていないと、お迎えの保護者が過度に目立つことがあります。長く園に残る子は、次々とやってくるほかの子のお迎えを寂しく眺めることとなります。下の写真の園でも、以前はお迎えの大人姿を見て泣き出してしまう子が多かったそうですが、目隠しをほどこしてからはお迎え時間も子どもたちが落ち着いて遊べるようになったといいます。



▲ 廊下の戸のガラスに、さり気なく切り紙を貼って目隠ししている。(東京・公立保育園)

## もりでの保育は見立て遊びが生まれやすい環境


子どもの主体性を育むために、もりは絶好の場所です。人工的な遊具が何もなくとも、虫、草花、木の枝、石、土など宝物がたくさんあります。子どもたちは自分なりの解釈で「見立て」を生み出して、ストーリーを作り出しています。本物の自然は、常に変化し続け、子どもたちの「気になる!」「やってみたい!」という気持ちを呼び起こします。 



▲広大な雑木林の中に、特別養護老人ホームやケアハウスもある福祉複合施設。(愛知たいようの社/ゴジカワ村 通りのようちえん/愛知・長久手市)

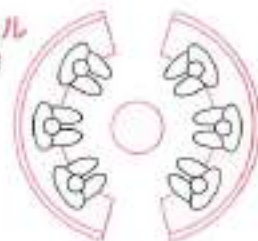
## 交流が発生する「ソシオベタルな空間」

カナダの精神科医H.オズモンドが提唱した、「ソシオベタル」(sociopetal)という概念があります(※)。人と人が向かい合わせになって、自然と交流が発生しやすい配置のことです。まだ言葉によるコミュニケーションが十分でない小さな子どもたちにとって、ソシオベタルな空間デザインは意味を持ちます。ほかの子どもから刺激を受けて、「まねしてやってみたい」「一緒に遊びたい」という気持ちにつながります。保育の場には、そこそこにソシオベタルな空間を作りこんでおきたいものです。

ソシオベタルとは逆に、人と人が離反する方向にすわる、「ソシオフーガル」(sociofugal)と呼ばれる配置の仕方もあります。駅やホールの待ち合わせ場所など、公共の場所において個のスペースを確保する必要がある場所において有効に使われています。目的に応じて設置・活用しましょう。 

### ソシオベタル

▶交流を促す配置



### ソシオフーガル

▶個のスペースを確保する配置



◀人がすわったときに自然と向き合うように設計されているソシオベタルな空間。窓の位置が子どもの視線の高さになる配慮も。(はくらのもり保育園/埼玉・久喜市)



▼中央に円形の手洗い場がある、ソシオベタルな空間。(ドイツ・デュッセルドルフの保育園)

